

2026年06月23日

ニュースリリース  
報道関係各位

入江工研株式会社

## 日本顕微鏡学会第 82 回学術講演会において企業展示会に参加 宇宙観測機輸送に革新をもたらす NEG ポンプ技術を共同開発 「NEGLAZE® (ネグレース®)」を展示

半導体製造装置・高速鉄道等に活用されるベローズ<sup>※</sup>の開発・販売を手掛ける入江工研株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長入江則裕 以下、当社）は 5 月 25 日（月）から 5 月 27 日（水）に宮城県仙台市青葉区にある仙台国際センター 展示棟にて開催された「日本顕微鏡学会第 82 回学術講演会」にて企業展示に参加いたしました。本展示会への参加は昨年に続き 2 回目になります。

2025 年 11 月 4 日より本格販売を開始した「NEGLAZE（ネグレース）」を始め、主要製品であるベローズ（金属伸縮継手）を展示。当日は当社社員が常駐し、ご質問やご不明点などご説明させていただきました。



### ■ 出展の目的

当社は昨年に続き、2 回目の参加となります。昨年初めて企業展示を行った際には、当社製品に関連する研究者や企業の皆様との有意義な情報交換の機会を得ることができました。特に本学会が産学の交流や最新技術の情報収

集において大変有益な場であることから展示を通じて新たなご相談や共同検討の機会も得ました。

そのため、本年も継続参加の運びとなり、当社にとって昨年同様大きな成果につながりを感じることができました。

本学会は、各社が最新技術や新製品を発表する場としても注目されており、業界動向や研究開発の最前線に触れることができる貴重な機会です。

今回の出展では、お客様に当社製品を実際にご覧いただきながら、当社の真空技術や製品開発力について理解を深めていただくとともに、活発な情報交換を通じて市場ニーズや課題を把握し、今後の製品開発やサービス向上につなげることを目的としています。また、既存のお客様との関係強化に加え、これまで接点のなかった企業や研究機関の皆様にも当社の技術や製品を知っていただくことで、新たな連携や事業機会の創出を目指してまいります。



## ■主な展示品

### 無酸素 Pd/Ti 蒸着非蒸発型ゲッター(NEG)ポンプ「NEGLAZE® (ネグレイズ®)」(現品展示)

2022年度(一社)日本真空工業会表彰『イノベーション賞』を受賞製品「真空排気の効果をもつ成形ベローズ」で、2025年11月に正式販売を開始しております。2025年10月には国立大学法人東京大学大学院新領域創成科学研究科の吉川一郎教授らと「宇宙観測機輸送に革新をもたらすNEGポンプ技術の開発」として共同発表をさせていただいており、当製品により惑星科学や深宇宙探査が進歩することが期待されています。

NEGLAZEはお客様の用途に応じて、比較的容易に超高真空環境を作り出すことができます。例えば、超高真空環境を必要とする容器・機器・装置(分析装置や試料保管容器など)に応用可能です。

今回、販売を開始したICF203サイズのゼロリング型を展示しました。



※本製品は、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構が有する、特許第6916537「非蒸発型ゲッターコーティング部品、容器、製法、装置」の許諾を受けています。

### 昇降用溶接ベローズ(現品展示)

加速器・核融合・鉄道・医療などの幅広い分野において、気体・流体の気密封止を担うシール部材として使用されている溶接ベローズ。

今回は、この溶接ベローズを内蔵した超高真空対応の導入機や、耐食性に優れた高ニッケル合金製の小型・薄型溶接ベローズをご紹介します。

「伸縮性」と「高い気密性」を併せ持つ特長を活かし、加速器などの装置における固定配管同士の接続部やシール部、容器とポンプを接続する製品などを展示しました。



当社の活躍の場は海外市場にまで拡がり、真空技術の新たな価値を生み出す研究開発に取り組んでおります。当社の「強み」である「今ある技術を軸として発展を継承する」「個性ある技術＝お客様の想像を超える技術の開発」を目指し、人材を育成し、技術の発展のための開発を続けていきます。

※「ベローズ(Bellows)」とは、日本語に訳すと「蛇腹」という意味を持ちます。工業製品でいう「蛇腹」とは紙・布・プラスチック・金属などの膜ないしは板状の部材で作られる、山折りと谷折りの繰り返しの構造の製品です。真空を扱う分野では、一般に金属で製作した筒状のものにひだを設け、伸縮性・気密性・バネ性を持たせたものを「ベローズ」と呼んでいます。つまり、「ベローズ」＝「伸縮管」です

## ■第 82 回学術講演会のテーマ

第 82 回学術講演会では、「マルチディシプリナリー研究のためのマルチスケール・マルチモーダル顕微鏡学」をテーマに掲げています。

近年、顕微鏡技術は急速な進化を遂げており、ナノからマクロまでの幅広いスケールに対応するとともに、異なる観察・分析手法（モダリティ）を組み合わせることで、これまで見えなかった現象や構造の解明が可能になっています。また、研究分野の垣根を越えた連携も進み、医学・生命科学をはじめ、金属・無機材料、物理、化学、情報科学など、多様な領域において新たな研究成果が生まれています。

さらに仙台では、2024 年に次世代放射光施設「NanoTerasu」が運用を開始し、2025 年には東北大学の顕微鏡関連施設を連携する「東北先端顕微鏡センター」が始動するなど、先端研究基盤の整備が進んでいます。

本講演会では、こうした最新動向を共有するとともに、異分野の研究者が交流し、新たな発想や研究連携を生み出す場となることを目指しています。プログラムは従来の「装置系」「材料系」「生物系」に加え、「分野融合」の視点を取り入れたセッションを多数企画しており、学術・産業界を横断した活発な議論と交流が期待されます。

## ■開催概要

日本顕微鏡学会第 82 回学術講演会

会期：2026 年 5 月 25 日（月）-27 日（水）

会場：宮城県仙台市青葉区 仙台国際センター 展示棟

主催：公益社団法人日本顕微鏡学会

主催者 HP: <https://conference.wdc-jp.com/microscopy/conf2026/>

『マルチディシプリナリー研究のためのマルチスケール・マルチモーダル顕微鏡学』

をテーマに 3 GeV 高輝度放射光施設ナノテラス（NanoTerasu）で注目される仙台での開催になりました。

以上

入江工研株式会社 会社概要

代表者：代表取締役社長 入江則裕

設立：昭和 41 年 5 月 24 日

資本金：1 億円

住所：〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-3 日比谷国際ビル 414

TEL：03-3507-9611（代表）

FAX：03-3507-9615（代表）

URL：<https://www.ikc.co.jp/company.html>

アクセス：<https://maps.app.goo.gl/iSsyCWrXXgq2rzDE6>

従業員：約 196 名（2026 年 3 月 31 日現在）

<本件に関するお問い合わせ先>

入江工研株式会社 経営企画室 広報係 担当 村山

TEL:03-03-3507-9617/ Fax: 03-3507-9615

Mail: [koho@ikc.co.jp](mailto:koho@ikc.co.jp)